就学前の子どもによる母親と離れての外出の様相

小島康生

(中京大学)

キーワード：就学前、母親との分離、外出

How preschool children spend away from their mothers by going out?: Developmental trends and birth order effects

Yasuo KOJIMA

(Chukyo University)

Key Words: preschool children, separation from mother, going out

目 的

ヒトの子どもは、養育者による手厚い保護と世話を前提にこの世に誕生し、成長する。そのため、子どもが小さい時ほど、親（とくに母親）は子どもの近くに滞在し、不測の事態にもすぐ対応できる体勢をとっている。だが、子どもの成長と共に母親は、子どものようすや周囲のようすを確かめながら離れて過ごす時間が増え、子どもを留守番させて短時間の外出を試みたり、反対に子どものほうが母親から離れて外出していったりする機会が出てくる。筆者は、このような「離れる一近づく」の繰り返し親子の相互自立に繋がっていくものと考え、就学前から就学後にかけての縦断データを収集している。本報告では、就学前のデータに基づき、子どもが母親から離れて外出する事例の特徴を概観する。

方 法

A 市内の私立幼稚園（11 園）に協力を依頼し、園児の保護者 1,500 余名に対し、園を通じて調査用紙を配布した。420 名（約 30%）の母親から回答が得られた。調査用紙は日誌形式になっており、1. 子どもを置いて母親が外出した（いわゆる留守番）、2. 母子で外出し、外出先で母親が子どもと別行動をとった（実家に子どもを預けて母親は買い物に行くなど）、3. 母親から離れて子どもが外出した、の 3 ケースについて、連続 5 日間にわたり該当するケースについて詳細を記録してもらった。回答に不備のなかった 409 名のデータを分析にもちいた。年少、年中、年長の各クラスの児は 108 名、160 名、141 名であった。本発表では上記 3 つについて報告する。なお、3 の大半では、母親以外の他者が子どもに同行していた。

結 果

子どもが母親と離れて外出すること自体があったかどうかを分析した。記録を依頼した 5 日の間に一度でもあったと回答されたのは、年少クラスで 53 名（49.1%）、年中クラスで 87 名（54.4%）、年長クラスで 75 名（53.2%）であった。子どもの外出先を分類したところ、a. ゴミ出し・回覧板届けなど、b. 近隣の遊び場（マンション敷地内の踊り場、付近の道端、家の近くの公園など）、c. 祖父母の家、d. 友だちの家、e. 習い事・教室、f. お店・病院・外食などの 6 つに分けられた。年少、年中、年長のいずれの子どもも b が最も多く、次いで f が多かった。外出先の分布は、年齢クラスによって異なり（ $\chi^2(10)=22.06, p<.05$ ）、c が加齢と共に減り、d が増える傾向がみとれた。e も加齢と共にやや増加した。

a～f の外出先ごとに、同行者がいたか、同行者は誰であったかを分析した。b（近隣の遊び場）は、いずれの年齢でも父親の同行が多かったが、年中、年長では「きょうだい」と「単独」の割合もそれぞれ 15～20%程度に達した。ただ、きょうだいで近隣の遊び場へ行くのは、第二子以降の子どもに集中していた（図 1、2）。c（祖父母の家）は、年少では夫の同行、年中では祖父母の同行（祖父母が迎えに来て連れて行くこと）が多く、年長では「きょうだいで」が多かった。年齢

に関係なく「単独」の割合も多かった（図 3）。祖父母のすまいが近くにあり（同じマンション内など）、子どもが単独で祖父母宅に行くケースがこれに該当するようであった。

子どもが外出したのち、母親との再会がどのような形でなされたかを分析した。父親や祖父母が子どもと一緒に外出したケースでは、父親や祖父母がそのまま子どもを連れて家に戻るケースがほとんどであった。いっぽう、きょうだいと一緒にであった場合、年少では母親が迎えに行くことが多かったが、年中、年長では、きょうだいと一緒に戻ってくるもののほうが多かった（図 4）。行き先は、a（ゴミ出しなど）、c（祖父母宅）、d（友だちの家）などが多かった。

図 1 近隣の遊び場へ出掛けた時の同行者（弟妹のいる第一子）

図 2 近隣の遊び場へ出掛けた時の同行者（第二子以降）

図 3 祖父母宅へ出掛けた時の同行者

図 4 きょうだいと出掛けた時の母親との再会

考 察

外出の頻度自体には特筆すべき年齢変化が認められなかったが、外出先や同行者、母親との再会の様式には加齢による変化があった。年中、年長クラスの第二子以降の子どもは、きょうだい（兄や姉）と一緒に近隣の遊び場へ比較的良好に出掛けていることがわかった。そのようにして、きょうだいと出掛けた子どもは、年中、年長になると、帰宅もきょうだいと一緒にであることが多かった。

本研究は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：24530839、研究代表者：小島康生）による助成を受けておこなわれたものである。